

上鳥羽学区まちづくり物語

京都市下京区上鳥羽学区における 2004 年から 2009 年までの活動を振り返って

立命館大学産業社会学部石本ゼミ「上鳥羽班」の取組報告



図 向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ

石本 幸良

立命館大学産業社会学部講師

アルパック (株)地域計画建築研究所

上鳥羽学区まちづくり物語 目次

第1章 上鳥羽でのまちづくり活動スタートのきっかけ - 1 頁

1. 上鳥羽学区の概要と取組
2. 上鳥羽学区でのあんしんあんぜんの取組
3. 私と上鳥羽学区の出会い—京都市・大学との協働によるまちづくりのスタート

第2章 まちづくり活動の開始 - 2 頁

1. 「向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ」の取組
2. あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の取組
 - (1) あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の設立
 - (2) 上鳥羽あんしん・あんぜんパレード
 - (3) 竹プランターづくり
 - (4) 七夕の夕べ
 - (5) 夏の納涼フェスティバル「夏の夜市」の開催

第3章 小さなおせっかい宣言 - 4 頁

- (1) 小さなおせっかい運動の推進
- (2) 東京都荒川区の取組「おせっかいおじさん・おばさん運動」との連携
- (3) 小さなおせっかい宣言
- (4) 「小さなおせっかい寸劇」の上演
- (5) 「小さなおせっかい賞」の創設
- (6) 小さなおせっかいソング

第4章 あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の今後の活動展開に向けて - 8 頁

- (1) 小学校と地域の連携による子どもの見守り活動の展開
- (2) 取組による効果
- (3) 上鳥羽の活動に対する表彰
- (4) まちづくり活動に対する地元の評価
- (5) 上鳥羽における今後のまちづくり活動の発展に向けての提案（私案）

■平成16年度から平成22年度までの主な活動の概要 - 10 頁

第1章 上鳥羽でのまちづくり活動スタートのきっかけ

1. 上鳥羽学区の概要と取組

上鳥羽学区は南区の鴨川と桂川に挟まれた南部に位置し、国道1号など南北東西の都市幹線道路が集中し、事業所や工場なども多く立地する面積の広い学区で、人口8881人、世帯数3658、高齢化率17.8%（平成17年国勢調査）である。町内会加入率は低下傾向で、その原因としてマンションの未加入世帯もあるが、学区内で建設の盛んな建売住宅の加入率が低いことも挙げられる。

（上鳥羽学区の位置）



2. 上鳥羽学区でのあんしんあんぜんの取組

この上鳥羽学区で近年の子どもを取り巻く痛ましい事件の多発を受け、自治連合会を中心に、各種団体、小学校、PTA等が一体となり、子どもの防犯対策・安全教育を開始した。平成16年6月に、児童全員に「防犯ブザー」と「防犯ステッカー」を配布、12月に自治連合会、PTAが協力をして、「子どもの安心・安全を呼びかける」ビラの全戸配布、ポスターの作成、「上鳥羽あんしんあんぜん パトロール中」の啓発のぼり旗を掲示する活動が実施された。

（啓発のぼり・防犯ベル）



3. 私と上鳥羽学区の出会い—京都市・大学との協働によるまちづくりのスタート

平成17年の2～3月に、南区と京都市景観・まちづくりセンター（以下「まちセン」）主催で「地域まちづくりセミナー」の開催が企画され、まちセンからそのコーディネーターを依頼された。これが私と、上鳥羽の出会いである。そこで立命館大学産業社会学部石本講師の立場で、「地域における安心・安全」をテーマに、「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」と題してワークショップを開催することとした。

（地域まちづくりセミナー）



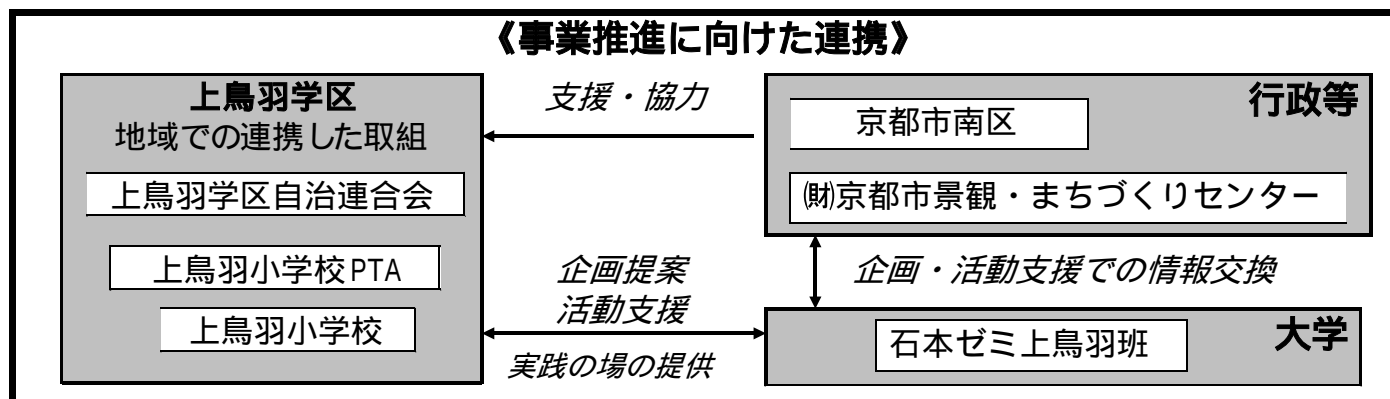
上鳥羽では自治連合会と学校、PTAが協力して防犯グッズの配布やのぼり旗設置による目に見える活動が実施されていたが、今一度学区の状況を互いに把握し、まちの特性や課題を確認することからスタートしたいと考えた。学区内における三世代遊び場マップを作ることで、世代を超えたまちの遊び場や子どものたまり場を、各世代で確認するワークショップを企画、実施した。（第1回平成12年2月17日「上鳥羽の寄り道、まわり道、遊び道」・第2回「上鳥羽学区の安心・安全の数珠つなぎ」）

このワークショップを通じて、「親どうしのつながりを深めること」「日常の声かけや挨拶を大切にすること」「地域みんなで子どもたちを見守ること」「企業も地域と一体になって安全なまちへの取組を展開すること」を確認することができた。

このワークショップを契機として、平成17年度以降は、地元の自治連合会を中心に多くの団体等と、大学のゼミ、京都市との協働による「安心安全のまちづくり活動」がスタートすることとなった。このような体制ができたのは私の知人がPTAの役員をしていたことと、ゼミ生で学区在住の学生が在籍し、ゼミで上鳥羽班を立ち上げようとの提案があったことも大きな要因である。



（図）上鳥羽における安心安全に向けた活動実施のための連携



第2章 まちづくり活動の開始

1. 「向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ」の取組

平成17年7月に「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」に向け、「向こう三軒両々隣り - 安心安全の数珠つなぎマップ作成」の提案を行い、学区全体でマップづくりの取組を開始した。

この取組は地域全体が子どもたちや高齢者を暖かく見守り、支えあう地域づくりを目指している。住民の方に近所に声かけをしますと「向こう三軒両々隣り-安心安全の数珠つなぎ宣言」をして頂き、宣言したお宅を基点に「向こう三軒両々隣りの10軒」を「1ユニット」として、このユニットを住宅地図にプロットしてつながり度を示す「向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ」を作成するものである。お互いの目と声かけでつなぐ、「まちの安心・安全のつながり」の度合いをビジュアルに示すことで取組状況の確認ができる。

16年度のワークショップの際には参加者に自分の家をプロットして頂き、マップの趣旨を体験してもらった。平成17年度ではマップづくりのパンフを作成し、委員や自連合会を通じて、学区内に配布し、協力を依頼した。また、学区内の企業のみなさんには、「安心安全の数珠つなぎ“見守り”宣言」を呼びかけた。

平成20年度末で約400名、40社の宣言を頂き、地図にプロットしました。まだまだ学区全体から見ると、数珠つなぎにまでは至っていない。

このようなマップになることは学区の特性から予想していた。学区には国道1号をはじめ、東西南北に幹線道路があり、大規模な事業所や倉庫などが多く立地しており、道路や大規模土地利用のため、どうしてもユニットが途切れる。この途切れることが学区の特性であり、空白の部分はどうしても子どもに対して大人の目が行き届かない死角があることを確認する意味も含んだマップと言える。

この取組は「向こう三軒両々隣り」の表現とみんなで作製してまちを確認するわかりやすい取組のため、メンバーには好評で、現在もこの表現が語られている。

図 向こう三軒両々隣りの考え方

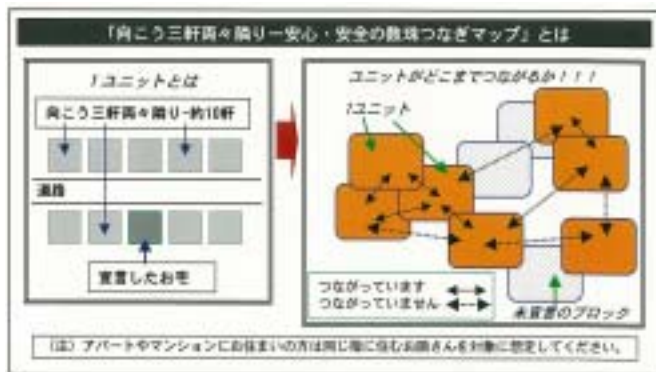


図 向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ



（安心安全数珠つなぎマップ作成の取組）



（2）上鳥羽でのまちづくりの基本目標の設定（平成17年度）

平成17年度は「向こう三軒両々隣り-安心安全の数珠つなぎ宣言」の取組を中心にまちづくり活動を展開したが、平成17年度の上鳥羽学区のまちづくりの基本目標を、「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」と設定した。この基本目標は現在の基本目標として受け継いでいる。

（3）上鳥羽でのまちづくりの取組目標（平成18年度）

平成18年度からは「声かけ」の言葉を「小さなおせっかい」と表現することで、抵抗なく声かけできるように考えた。

平成18年度の取組目標
「小さなおせっかいがこちよい上鳥羽のまち」
日々のまちなかで、ご近所どうしがお声かけをする、
「ちいさなおせっかい」がこちよい、そんな「上鳥羽のまち」を目指したい

2. あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の取組

(1) あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の設立

平成17年度の子どもの安心安全に向けた様々な活動の取組を踏まえ、さらに組織的、計画的に取組を展開することを目的として、自治連合会と各種団体、PTA、小学校などが集まって、平成18年4月に「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」が設立された。この委員会の設立にあたっては、自治連合会を中心に地元主導型で進められ、自治連合会の組織の中に正式に位置づけた委員会として設立された。私もこのような委員会が必要と考え、関係者には提案していたが、自主的な取組として委員会が設立されたことは、平成16年度からの取組の継続の成果と言える。

委員会には自治連合会に参加する各種団体の関係者がほぼ参加している。自治連合会自体の定例の会議よりもメンバー構成や、開催頻度などが充実していると言える。委員会は月1回の定例会を開催、団体の報告、情報交換、委員会主催の各種取組の検討等を行っている。

また、委員会の特徴として、南区役所等の行政も参加しており、特に自治会館の隣りにある上鳥羽交番から毎回おまわりさんが参加して子どもを取り巻く状況確認も行っている。安心安全に関わる問題について、委員会メンバーが情報共有している。定例の委員会開催が各種団体の交流や活動の相互支援に役立っている。

(委員会の様子)



(2) 上鳥羽あんしん・あんぜんパレード

委員会の最初の取組として、子どもの安心安全を見守る取組を広げることが目的に、4月に「あんしん・あんぜん推進パレード」を実施した。委員会メンバーや子どもたちと、学区内の公園から小学校までパレードを行い、沿道のみなさんに、「大人の温かい目によるこどもの見守り」をPRしている。パレードには毎回京都市音楽隊の協力を頂き、音楽とともにカラフルなパレードは沿道の住民を呼び集め、以降も毎年開催で、学区の春の風物詩として定着しつつある。

(あんしん・あんぜんパレード)



(3) 竹プランターづくり

委員会の取組を代表する、子どもの見守り活動として、「竹プランターづくり」に取組んでいる。

この企画は私が同時期に関わっていた京都市西京区の「洛西ニュータウンの将来ビジョン策定」の取組の中で提案したものである。洛西地区は昭和40年代後半から建設が開始されたニュータウンで、まち開きから30年以上が経過し、ニュータウンの再生に向け、まち全体で将来ビジョンの作成に取り組んでいた。洛西地区は竹林や放置林も多く、竹の利用が課題であった。そこでこの竹を使ったまちづくりの取組として「竹プランター」づくりを提案した。この企画は残念ながら、竹の処理の問題が解決せず、洛西では実現しなかった。

この企画内容を上鳥羽でPTAとおやじの会に持ちかけたところ、みんなで取組もうと話がトントン拍子で進み、実現することになった。メンバーと一緒に洛西の竹林に行って竹を入手し、土曜日に委員会メンバーが参加して竹プランターを製作した。出来上がった手作りの竹プランターを学区内の希望者に配布して、必ず玄関先に飾り付けもらい、朝夕の水やりの際に、近所の挨拶と子どもへの声かけをお願いした。学校には子どもに登下校時に水やりをされる方を見たら、必ず挨拶をするように指導をお願いした。竹プランターを通じてまちなかに、子どもと子どもを見守る声かけが広がることを意図した取組である。

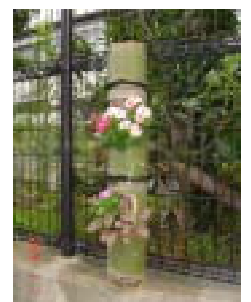
(竹プランター)



■ 竹プランター取組の目的(意図) - 竹プランターを通じて

- あんしん・あんぜんまちづくりと美しい上鳥羽のまちづくりを、同時に進めます。
- 花と緑で美しい通りづくり、そして「おもてなしの上鳥羽」を表現する花を育てます。
- 花を囲んでお隣同士でちょっとした声かけと花談義をしてください。
- 毎日の水遣りは子どもたちの登校時間に、下校時間に合わせて行ってください。
- そしてその時に子どもにちょっと声かけをしてください。
- 子どもは花を愛でる近所の人を見たら挨拶をしてください。

・・・なんか、お花ひとつからいろんな思いへの広がりへ・・・



（４）七夕の夕べ

委員会を中心とした取組は順調に継続していたが、子どもが中心となる取組により、子どもの意識を高めたいと考え、小学校が実施している七夕の夕べの充実を図った。

これから夏休みに入る前に、夏の夜を味わい、子どもが楽しむことのできる企画を七夕の夕べに実施することとした。最初の年は小学生や保育園児、そして委員会メンバーが書いた短冊の七夕飾りを小学校の校門前に並べ、足下には竹ブランターやペットボトル行灯を並べ、花火大会など、子どもと親と一緒に七夕の夕べを楽しむ企画とした。２年目以降は短冊の数も増え、夜店やゲームコーナーを設けた。この取組も毎年継続しており、子どもたちの楽しみの一つとして取組が定着している。

（５）夏の納涼フェスティバル「夏の夜市」の開催

上鳥羽では他の学区で実施されている夏祭りがこれまで実施されていなかった。七夕の夕べに加え、夏休みの子どもたちの見守り活動と、夏の夜の子供たちの新たな楽しみ、思い出づくりとして「夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』」を提案した。委員会メンバーも新たな夏祭りの実施には賛成で、最初の３年間は小学校の校庭を利用して実施した。夏祭りで子どもたちは夏の夜を楽しみ、大人はその風景を見て昔風の夜なべ談義を繰り広げている。

しかし、１年目に子どもを対象とした企画であったが、世話役メンバーの小学校内における喫煙と飲酒問題について、参加した父兄から指摘を受け、その対応で委員会も相当に苦労した。計画段階で教育委員会に申請等を行えば、問題はなかったようだ。

４年目からは委員や参加する住民の要望を取り入れ、飲酒等も可能な学区内の村山公園で開催することとした。併せて、石本ゼミ学生を中心にペットボトル行灯を約 750 個作成して、「天の川イン西高瀬川」と題して、公園横の川の土手に並べた。行灯の絵は子どもたちや自治連役員の方の作品を貼り付け、夕闇の中にほのかに光る行灯は、また一つ上鳥羽の新しい夏休みの思い出を追加することができた。

夏の思い出となる「七夕の夕べ」と「夏の夜市」を提案し、毎年委員会を中心に企画内容を膨らませて実施している。委員会の学区全体に呼び掛けて実施する他の活動に加え、委員が楽しみ、住民との交流を図ることのできる夏のイベントは、まちづくりを進める上で重要な役割を担っている。

（七夕の夕べ）



（夏祭り）



（天の川イン西高瀬川）



第3章 小さなおせっかい宣言

(1) 小さなおせっかい運動の推進

委員会の取組となる「小さなおせっかい宣言」のネーミングについて、「おせっかい」という言葉を使うことに対して、委員から抵抗感を持たれる懸念は認識していた。そこで頭に「小さな」をつけることで、「おしつけがましくない心くばり」の意味を付加し、柔らかな表現になるよう心がけた。

今一度ご近所づきあいを見直し、小さな目くばり・心くばりを復活することで、まちの安心安全の地域力を再生させたい、こうした想いのもと、平成18年度のまちづくり目標を「小さなおせっかいがここちよいまちづくり」と設定した。

しかし、「小さなおせっかい」と一口に言っても、その捉え方は人によって差がある。そこでその内容を確認する意味で、「小さなおせっかい」に対する住民の方の「ここちよさ度」と「おせっかい度」の程度を探ることを目的に「小さなおせっかいアンケート調査」を、いろいろな活動の際に実施して、「小さなおせっかい」のPR活動を行っている。

(小さなおせっかいアンケート)



(荒川区パンフ)



(2) 東京都荒川区の取組「おせっかいおじさん・おばさん運動」との連携

上鳥羽で「小さなおせっかい」を、おそろおそろまちづくりの活動の目標に掲げていた頃、テレビで荒川区の取組を知った。荒川区では「あらかわの心」推進運動において、「おせっかいおじさん・おばさん運動」と題して、区民に「おせっかい」についてのアンケート調査を実施し、その結果をパンフにまとめたとの情報である。上鳥羽では住民の反応を気にしていたが、荒川区の大胆さにはやや驚いた。すぐに連絡を取り、その活動の内容の学習と情報交換を申し入れ、交流が始まった。上鳥羽の取組は住民主体の学区全体の取組で、荒川区は区全体の取組であり、その内容には差があるが、「おせっかい」つながりを大切にしたいとの思いで交流を図った。

(3) 小さなおせっかい宣言

委員会を中心とするこれまでの多様な取組の結果として、「小さなおせっかい」の声かけは3年目を迎え、学区住民に徐々に認知と理解を深めつつある。そこでこれを踏まえ、委員会で協議の上、平成21年2月21日に「上鳥羽 - 小さなおせっかい宣言」を行った。上鳥羽の代名詞になりつつある「小さなおせっかい」を学区内外に発表することで、上鳥羽の取組をPRすることと、PRすることでさらに取組を強化することを目的とした。「小さなおせっかいに包まれた、温かい、ここちよい上鳥羽のまちづくり」を広く発信することを宣言した。

(小さなおせっかい宣言)



『上鳥羽 - 小さなおせっかい宣言』

笑顔であいさつしましょう

人と出会ったら、まずは笑顔のあいさつからここちよい関係を作りましょう。「おはよう」から「おやすみ」まで家族の中から地域まで広げましょう。

思いやりの心を持ちましょう

私たちは大勢の人に支えられて生活しています。他人への思いやりや感謝の気持ちで、相手の立場で、考えましょう。

声かけをしましょう

私たちのまわりの子どもやお年寄りを見守り、優しい声かけから、「小さなおせっかい」に取組みましょう。

できることから始めましょう

おせっかいは、昔は日常のことでした。あらたまって意識した取組みではなく、日常の中で気付いたときに、さりげない心配りから始めましょう。

みんなで取組みましょう

「小さなおせっかい」は安心感を育てます。笑顔は笑顔をさそいます。まちじゅうが安心とここちよさに包まれるよう、地域ぐるみで取組みましょう。

(4)「小さなおせっかい寸劇」の上演

小さなおせっかい宣言式の際には東京の荒川区「あらかわの心」推進運動のみなさんが来京され、おせっかいを題材とした「あらかわの心」の寸劇を上演された。この「寸劇」のシナリオを上鳥羽風にアレンジして、おやじの会、PTAそして学生の共演による「小さなおせっかい寸劇」を七夕の夕べの際に上演し、上鳥羽の取組として取り入れている。

(5)「小さなおせっかい賞」の創設

平成21年の七夕飾りでは小学生が、「小さなおせっかい」を題材に短冊を作った。その短冊の作品を先生方に整理して頂き、委員会で子どもたちの思いが伝わる作品を「小さなおせっかい賞」として選定し、七夕の夕べの際に各学年の優秀賞を発表し、表彰式を行った。

■平成21年度「小さなおせっかい賞」優秀作品

「おばあちゃんにもつをはこんだ」(1年2組 久世樹里奈)

「わたしはちいきのひとに あいさつをしてもらって うれしかったです」

(2年2組坂田涼夏)

「ちいきのひとに あいさつができるようになりたいです」(3年2組 富満匡哉)

「いつもきennaこと またふしんしゃがでた時に

すぐパトロールしてくれてありがとうございます」(4年1組 正木あみ)

「わたしが帰り道 一人になったときに はなしかけてくれた地いきのひと

ありがとう 安心して帰れたよ」(5年1組 高橋知聖)

「気がるにあいさつができるようになった」(6年1組 金光泰葉)

「おともだちと なかよくします」(5くみ 今村里緒菜)

(「あらかわの心」の上演)



(小さなおせっかい賞の表彰)



(PTA・おやじの会の寸劇上演)



(6)小さなおせっかいソング

平成22年度(7月3日)の七夕の夕べでは2つの大きなイベントを実施した。

1つは私の知り合いのシンガーソングライターの澤田好宏さんの作詞作曲による「小さなおせっかい」ソングを発表した。「小さなおせっかい」を子どもたちがいつでも口ずさむことができるようにと、校長先生の了解を得て、作成した。当日はあいにくの悪天候でしたが、講堂で「小さなおせっかい」ソングを発表、大勢の子供たちや保護者による大合唱となった。

もう一つはPTAとおやじの会、先生による「小さなおせっかい寸劇パート」の上演。「小さなおせっかいソング」をもとに、校長先生が寸劇のシナリオを作成し、学校とPTA、おやじの会の協働作業による寸劇を上演した。この取組も学校とPTAの自主的な協議の中で自然と盛り上がった活動である。

このように上鳥羽では、小さなおせっかい運動が、ゆるやかではあるが、定着化していることが伺える。

(小さなおせっかい寸劇の上演)



(小さなおせっかいソングの合唱)



ちいさなおせっかい

作詞作曲: 澤田 好宏

ちいさなおせっかい 大きなちから
お父さんお母さんおはようさん
笑顔であいさついい気持ち
みんなで一緒にいただきます! 早寝早起き朝ごはん

ちいさなおせっかい 大きなちから
行きますお隣さん お帰るなさいお向かいさん
笑顔で声掛けいい気持ち 大きな声でごあいさつ

やさしい思いやり ありがとうの言葉
たったそれだけで繋がって それがちいさなおせっかい

ちいさなおせっかい 大きなちから
おやすみなさいお星さま 明日も良い日にお月さま
夜空にむかって祈ります きっと明日も元気です

ちいさなおせっかい 大きなちから

京都

味ひとすじ むかし
ひとね

新築極上・でんわ 221-2411

支局長
からの手紙

「おせっかい」の意味を辞書で調べると「必要もないことに口出ししたり、世話を焼いたりすること」「余計な世話を焼くこと。他人の事に不必要に立ち入ること」とあります。おせっかいを焼かれてうれしいと思う人はあまりいないでしょう。

しかし、「小さなおせっかい」なら、焼いても焼かれてもいいかな。京都市立上鳥羽小学校(南区)の体育館で開かれた「七夕の夕べ」を見て、そんなことを思いました。

各地で子供が被害者になる事件や事故が相次いでいることを受け、上鳥羽学区の自治会連合会は04年から小学校やPTAなどと一緒に、児童への防犯ブザー配布や安全パトロールなど防犯活動を行っています。さらに立命館大産業社会学部講師の石本幸良さん



小さなおせっかい

らが開いた「地域における安心・安全」をテーマにしたワークショップを通じて、「親同士のつながり」「日常的な声掛け」「地域みんなで子供を見守る」などの大切さを認識するようになり

それらが発展し、学区民は「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立。昨年2月、地域の見守り、声掛けによる安心安全なまちづくりを目指して、「上鳥羽 小さなおせっかい宣言」をしました。宣言は①笑顔

であいさつしよう②思いやり の心を持ちましよう③声かけをしよう④できることから始めましよう⑤みんなで取り組みましようの五つからなります。一連の活動は高く評価され、同委員会は昨年11月、文部科学大臣表彰「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。そして、「小さなおせっかい」を多くの人に広め、親しみを持ってもらおうと「小さなおせっかい」という歌が誕生、七夕の夕べで披露されました。

ちいさなおせっかい 大きなちから 行きますお隣さん お帰るなさいお向かいさん 笑顔で声掛けいい気持ち 大きな声でごあいさつ やさしい思いやり ありがとうの言葉 たったそれだけで繋がって それがちいさなおせっかい

【京都支局長・北出昭】

第4章 あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の今後の活動展開に向けて

(1) 小学校と地域の連携による子どもの見守り活動の展開

(登下校における地域の見守り活動)



平成18年4月「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立以来、委員会では「小さなおせっかいがこちよいまちづくり」を基本目標に、活動を継続している。

上鳥羽の取組は手探りからのスタートで、住民の手作りの取組を基本に、これまでその内容の充実と取組規模の拡大を図ってきた。「向こう三軒両々隣りー安心安全数珠つなぎマップ」、「上鳥羽あんしん・あんぜんパレード」、「竹プランターづくり」、「七夕のタペ」、「夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』」、そして「小さなおせっかい宣言」と、上鳥羽から全国に発信するユニークな取組を実践している。

委員会ではこのように、今一度ご近所づきあいを見直し、小さなおせっかいを復活することで、「まちの安心安全の地域力の再生」を目指して取組んでいる。

(2) 取組による効果

平成20年5月21日に大阪で傷害事件を起こした犯人が逃走中に、上鳥羽学区内の桂川で傷害事件を再発した。その情報はすぐに警察から学校および委員会に連絡が入り、委員会で事前に作成していた連絡網により、各種団体に連絡が回った。委員会では各種団体と協力して事件発生当日の午後には校門前や交差点で子どもの登下校の見守り体制を組織し、有効な取組が作動した。

上鳥羽に隣接する学区では事件発生の情報伝達が不十分で、学校と連携した有効な取組が行われず、事件解決後に上鳥羽の迅速な活動の立ち上がりが高い評価を受けた。委員会を中心としたこの数年の継続的な活動の成果と言える。

反省点として連絡網の不備の確認、行政からの連絡体制の再構築が指摘され、見直しを行った。



(3) 上鳥羽の活動に対する表彰

平成21年度に上鳥羽のまちづくり活動が評価され、2つの賞を受賞した。

一つは文部科学省「学校安全ボランティア活動奨励賞」文部科学大臣賞受賞を受賞、同時に、財団法人あしたの日本を創る協会の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」振興奨励賞を受賞した。

これはあんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会を中心とした、小学校、PTA、おやじの会、そして地域のみなさんの協力による、平成16年度からこれまでのまちづくり活動の実践の取組に対する評価と言える。

今回の受賞を契機に、関係者のご理解とご協力のもとに、さらにまちの安心安全の地域力向上に努めることを確認した。



(4) まちづくり活動に対する地元の評価

ここでは平成 22 年度ゼミ生が卒業論文作成にあたって実施した関係者へのヒアリングとアンケートによる活動分析を参考に、上鳥羽のまちづくり活動の評価と、今後の課題を整理する。

(評価)・月 1 回の定例の委員会開催により参加団体の連携が深まっている。

・ 5 年間の活動を通じて「地域の子どもの安全安心を守るという明確な目的」に向け、活発なまちづくり活動を継続して実践している。

(課題)・上鳥羽の活動は対外的には高い評価を得ているが、一般住民の認知度が低いことや、行事等の参加者の顔ぶれが固定化しているとの指摘もあり、活動の内外への広報活動への取組を強化する。

・ 多様な活動を継続して実践しているが、アドバイザーの指導傾向がやや強く、今後は如何に自立した活動を実践できるかが、課題となっている。

(5) 上鳥羽における今後のまちづくり活動の発展に向けての提案(私案)

上鳥羽の今後のまちづくり活動において、大きく「活動の自立」と「活動の一般化」の 2 点が課題となっている。

これまでの上鳥羽でのまちづくり活動の実践を踏まえ、上鳥羽の取組がさらに自立した活動として住民に支持されることを願い、まちづくりプランナーとしての私の提案を以下に整理する。

活動の自立化に向けて

私は平成 16 年度からまちづくりアドバイザーとして、上鳥羽の活動で多様な、継続的な活動支援を実施してきた。これまでの活動を振り返り、その内容について、アドバイザーとして「ややリードしすぎ」との反省のもと、平成 22 年度には、これまでの継続的な実施を踏まえながらも、委員会主体の活動となるよう、私の支援活動を制御した。「小さなおせっかいソング」の製作など、これまでの活動の一定のまとめとして私の支援活動は行ったが、それ以外の委員会の活動は、ある意味自立を象徴する内容であったと思える。

今後は、アドバイザーとして委員会を中心に自立したまちづくり活動が展開するようにサポートしていくこととする。

活動の一般化に向けて - 委員会内部での広報部門の設立

委員会の活動内容については自治連合会や各種団体を通じて住民に広報活動が行われているが、その方法はこれまでの自治会等の連絡網や案内を利用する場合が多く、委員会独自の広報資料はない。私が作成した「上鳥羽通信」は年に 1 回程度全戸に配布しているが、住民への広報活動の面では不十分と言える。現在、自治連の事務局が広報を担当しているが、委員会には広報担当部局を設置していない。

委員へのヒアリングにおいても、「一般住民への認知度が低い」と指摘されている。

今後の委員会活動の住民への広報活動の充実に向け、PTA またはおやじの会でパソコンに詳しい人材もあり、早急な広報部門の設立の検討が必要である。先進的なまちづくり活動における広報活動などを紹介して、上鳥羽らしく、持続可能な広報部門の設立をサポートします。

現時点において、以上の 2 点が委員会の自立に向けて重要と考えている。

上鳥羽は自治連合会を主体に一般的な自治会活動を展開してきた地区です。その意味で上鳥羽において、私の提案したまちづくり活動は楽しく、参加者には受け入れやすい側面があったと思われる。今後はこの数年のまちづくり活動の実践を踏まえ、委員会が自立した活動を展開すること、また、私はその活動の支援者としてまちづくりアドバイザーの役割を十分に踏まえて活動を支援していく。

最後に PTA の方の意見を紹介する。

この言葉を糧に、私は上鳥羽のまちづくり活動を今後もサポートしていくこととする。

他人の事に関心の無いこのご時勢に、上鳥羽でこのような活動が増えるのはとても喜ばしいことです。大変なことです、犯罪や非行は少なくなると思うし、自分たちの手で住みよいまちにしていきたいと思います。私もどんどん協力します。上鳥羽は自慢の町です。他と比べるとよくわかります。

(新聞記事)平成18年5月12日京都新聞

地域で子ども見守ろう

上島羽学区 14日にパレード

京都府南区上島羽学区の「あんしん・あんぜんの会」は、14日、地域全体で、上島羽パレードを開催した。当日は、上島羽学区の各地区で、上島羽パレードを開催した。当日は、上島羽学区の各地区で、上島羽パレードを開催した。当日は、上島羽学区の各地区で、上島羽パレードを開催した。

パレードの内容を話し合う推進委員会のメンバーら（京都市南区・上鳥羽自治会館）

通ハレドです。同学校では、これまでから、自治連合会や上野利小PTAを中心に犯罪の抑止効果を高めるため、隣近所と組織的に声をかけ合う仕組みづくりなどを進めてきた。今後、各団体が集まり、同委員会を結成させ、活動の第一歩としてハレドを企画した。

午前10時、府警警務隊を先頭に東山公園（西横町）を出発。「安心して暮らせる上野川の街」と記した手作りのプラカードや、紫のぼり旗

し、鳥羽小堀ヶ前町まで約一・五キロ歩き、地域の人たちに呼びかけ

(新聞記事)平成18年5月16日京都新聞

犯罪から子どもを守ろう

「見守り」PRへパレード 南 京都市南区上鳥羽の町 本通で十四日、子ども 近衛から守ろうと、見 り活動の旗をPRす パレードが行われた。 保護住民ら約二百人が るかに行進し、協力を ひきつけた。 上鳥羽学区の自治会連 五と各種団体で今春発 生した「あんしん・あん ん上鳥羽推進委員会」 が初めて企画した。 パレードは午前十時す 、恵の合った演技を見	せる府警カラーガード 隊と音楽隊を先頭に、 東西公議（西側町）を出 発。「安心と暮らせる 上鳥羽の街」「子ども の安全を守ろう」と記さ れた作りブラカードや のぼりを持ち、旧千 本通を北進し、上鳥羽小 （城ヶ前町）まで約一・ 五キロを三十分かけて歩い た。	同委員会の村田治夫代 表は「自治会に入っ ていない世帯に見守りに
---	---	---



手作りリブラカードなどを手に行達する上鳥羽学区の住民たち（京都市南区）

協力してもらうため、後の大きな課題」と話し、どう働きかけるかが今だ。

(新聞記事)平成20年8月22日京都新聞

南区路上強盜

刃物男直後宇治に
逃走資金困り？襲う

「子どもが心配」

1



一名男子在馬路上行走。他背著一個藍色的背包，穿著一件藍色的襯衫。背景中可以看到其他行人和建築物。

[illegible]

「...」

100

後宇治に 金困り？襲う



(新聞記事)平成22年8月23日京都新聞

支局長
からの
手紙

「おせーかい」の意味を辞書で調べると、必要もないことに口出ししたり、世話を焼いたりすること。「余計な世話を焼くこと。他人の事に不必要に立ち入ること」とあります。おせーかいを焼かれてうれしと思う人はあまりいないでしょう。

しかし、「小さなおせーかい」なら、焼いても焼かれてもいいかな。京都市立上烏羽小学校（南区）の体育館で開かれた「七夕のタペ」を見て、そんなことを思いました。

各地で子供が被害者になる事件や事故が相次いでいることを受け、上烏羽学区の自治会連合会は04年から小学校やPTAなどと一緒になり、児童への防犯ブザー配布や安全なトロールなど防犯活動を続けています。さらに立命館大産業社会学部講師の石本幸良さん

り」「日常的な掛け合い」「地なで子供を見守る」などの大切さを認識するようになりました。

それらが発展し、学区民は「あんしん あげん上烏羽」推進委員会を設立。昨年7月、地域の見守り、声掛けに安心安全なまちづくりを目的とした「上烏羽小さなおせーかい宣言」をしました。宣言は04



小さなおせっかい

よる
指し
かい
顔

小さなおせっかい

うーの五つからなります。
一連の活動は高く評価さ
れ、同委員会は昨年11月、文
部科学大臣表彰「学校安全支
援ボランティア活動奨励賞」を
賞しました。そして、「小さ
なおせっかい」を多くの人に
広め、親しみを持ってもらお
うという歌が誕生、七夕の夕べで
披露されました。

ちいさなおせっかい
大きなから
行ってきたお隣さん
お帰るなさいお向かいさんお
笑顔で声掛けいい気持ち
大きな声であいさつ
やさしい思いやり
ありがうの言葉
たったそれだけで暖かくな
それがちいさなおせっかい

児童とステジで歌いました。事
異。澤田さんが児童と一緒に歌
のはこの日初めてでしたが、歌
は給食時間中の校内放送で流れ
ていたので児童も感づきとなさ
さな声で歌ました。澤田さん「さ
「ぶつは本番だったのに、生聲
命に歌ってれてうれしかった。
僕が作った歌すがもう僕のものを
ではあります」と感激の面持
でした。

◇

前回(16日)の本欄(「五山山
送り火」)で「御所の建礼時の
前あたりに立と五山すべてが早
えます」と書きましたが、当日
実際に見に行ったところ、大文
山の「大」の字しか見えません
た。取材、確認が不十分なま
記述し、読者と関係者に迷惑を
掛けたいのをおわびします。

【京都支局長・北出昭

■平成 16 年度から平成 22 年度までの主な活動の概要

年度	取組の概要
平成 16 年度	6 月 - PTA と各種団体の協力で児童全員に「防犯ブザー」「防犯ステッカー」配布 12 月 - 「上鳥羽あんしんあんぜ パトロール中」の上り旗掲示（12 月） 17 年 1 月 - 南区、京都市景観まちづくりセンターによる「地域まちづくりセミナー」開催
平成 17 年度	7 月 - 「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」の取組提案（7 月 石本ゼミから） 同時に「向こう三軒両々隣り - 安心安全の数珠つなぎ宣言、マップ作成」開始
平成 18 年度	4 月 - 「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立 4 月 - 上鳥羽あんしん・あんぜんパレード 6 月 - 竹プランターづくり 8 月 - 夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』
平成 19 年度	4 月 - 上鳥羽あんしん・安全パレード 6 月 - 竹プランターづくり（10 月にも実施） 7 月 - 七夕の夕べ 8 月 - 夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』
平成 20 年度	4 月 - 上鳥羽あんしん・あんぜんパレード 5 月 - 竹プランターづくり 8 月 - 夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』 9 月 - 小さなおせっかいアンケート調査実施 11 月 - 竹プランターづくり 平成 21 年 2 月 - 「上鳥羽—小さなおせっかい宣言」を実施。荒川区「あらかわの心」推進運動による「あらかわの心」の寸劇上演
平成 21 年度	4 月 - 上鳥羽あんしん・安全パレード 5 月 - 竹プランターづくり 7 月 - 七夕の夕。小さなおせっかい宣言の広報活動として、PTA、おやじの会、学生で「小さなおせっかい寸劇」上演、「小さなおせっかい賞」の創設。 8 月 - 夏の納涼フェスティバル「夏の夜市」（村山公園）、「天の川イン西高瀬側」実施。 11 月 - 上鳥羽学区自主防災訓練（上鳥羽小学校） - 約 330 名参加 11 月 - 竹プランターづくり（こども 110 番の家に竹プランターを配布） 11 月 - 学校安全ボランティア活動奨励賞受賞 11 月 - あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞受賞
平成 22 年度	4 月 - 上鳥羽あんしん・安全パレード 6 月 - 竹プランターづくり 7 月 - 七夕の夕べ。「小さなおせっかいソング」発表 8 月 - 夏の納涼フェスティバル『夜市』（村山公園） 11 月 - 竹プランターづくり

小さなおっせかいこちよい上鳥羽のまちづくりの紹介

平成 21 年 7 月 あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会

上鳥羽学区の概要と取組

上鳥羽学区は南区の鴨川と桂川に挟まれた南部に位置し、国道 1 号など南北東西の都市幹線道路が集中し、事業所や工場なども多く立地する面積の広い学区です。この上鳥羽学区で近年の子どもを取り巻く痛ましい事件の多発を受け、自治連合会を中心に、各種団体、小学校、PTA 等が一体となり、子どもの防犯対策・安全教育を開始しました。

平成 16 年 6 月に、児童全員に「防犯ブザー」と「防犯ステッカー」を配布しました。また、12 月に自治連合会を中心に、PTA と各種団体が協力して、「子どもの安心・安全を呼びかける」ビラの全戸配布、ポスターの作成、「上鳥羽あんしんあんぜん パトロール中」の啓発のぼり旗 100 本を、公園を中心に掲示する活動を行っています。

京都市・大学との協働によるまちづくりのスタート

平成 17 年の 2～3 月に京都市景観・まちづくりセンター主催で「地域まちづくりセミナー」を開催し、コーディネーターに立命館大学産業社会学部の石本講師を迎え、住民の関心の高い「地域における安心・安全」をテーマに、「まちへの思いを共有し、今後のまちづくり活動への展開の気運を盛り上げ、以後の活動に継続していくこと」を目的に、2 回のワークショップを開催しました。

このワークショップを通じて、「親どうしのつながりを深めること」「日常の声かけや挨拶を大切にすること」「地域みんなで子どもたちを見守ること」「企業も地域と一体になって安全なまちへの取組を展開すること」を確認しました。この取組みの成果を踏まえ、以降、地元の自治連合会を中心に多くの団体等と、大学のゼミ、京都市と協働による「安心安全のまちづくり活動」がスタートしました。

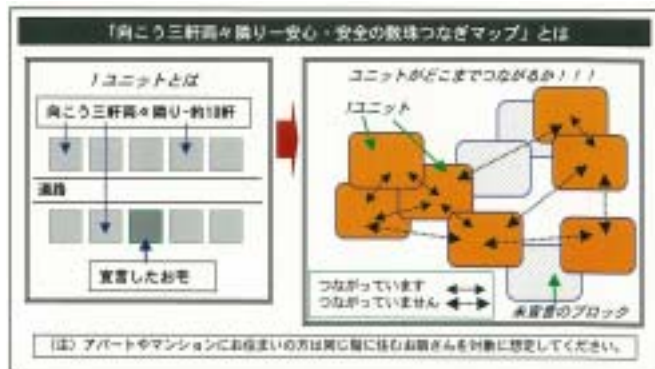


「向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ」の取組

平成 17 年 7 月に地域まちづくりセミナーの成果の報告会で、「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」に向けた取組が提案されました。また、石本ゼミの「向こう三軒両々隣り - 安心安全の数珠つなぎマップ作成」事業が、平成 17 年度の「大学地域連携モデル創造支援事業」の選定を受けたこともあり、学区全体としてこのマップづくりの取組を開始しました。

この取組は地域全体が子どもたちや高齢者を暖かく見守り、支えあう地域づくりを目指したものです。住民の方に「向こう三軒両々隣り - 安心安全の数珠つなぎ宣言」をして頂き、宣言したお宅を基点に「向こう三軒両々隣りの 10 件」を「1 ユニット」として、このユニットを住宅地図に

プロットしてつながり度を示す「向こう三軒両々隣り - 安心安全数珠つなぎマップ」を作成するものです。お互いの目と声かけでつなく、「まちの安心・安全のつながり」の度合いをビジュアルに示すことで取組状況の確認ができます。



また、学区内の企業のみなさんには、「安心安全の数珠つなぎ“見守り”宣言」を呼びかけています。

平成 20 年 3 月末現在で宣言者数約 400 人、見守り宣言企業数は 40 社になっています。まだまだ学区全体から見ると、数珠つなぎにまでは至っていません。しかし、様々な機会を通じて宣言者を増やし、まちの北から南へ、東から西へ数珠つなぎの完成を目指して取組んでいます。



あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の設立

平成 17 年度の子どもの安心安全に向けた様々な活動の取組を踏まえ、さらに組織的、計画的に取組を展開することを目的として、自治連合会と各種団体、PTA、小学校などが集まって、平成 18 年 4 月に「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立しました。推進委員会では月 1 回の定例会を開催、各団体の取組の相互報告と確認、および新たな取組の企画とその行動提起を行っています。

(取組)上鳥羽あんしん・あんぜんパレード

子どもの安心安全を見守る取組を広げることを目的に、毎年4月に「あんしん・あんぜん推進パレード」を実施しています。委員会メンバーや子どもたちと、学区内の公園から小学校までパレードを行い、沿道みなさんに、「大人の温かい目によるこどもの見守り」をPRしています。



取組 竹プランターづくり

子どもの見守り活動として、「竹プランターづくり」に取組んでいます。この取組は手作りの竹プランターを玄関先に飾り付け、朝夕の水やりの際に、子どもに声かけを行う運動です。委員会メンバー総出で竹プランターを作成し、学区内の希望者に配布して声かけを実行しています。



取組 七夕の夕べ

夏の夜の取組として七夕の夕べを実施しています。小学生や保育園児、そして委員会メンバーが書いた短冊の七夕飾りを小学校の校門前に並べ、足下には竹プランターやペットボトル行灯を並べ、花火大会など、子どもと親と一緒に七夕の夕べを楽しんでいます。



(取組)夏の納涼フェスティバル「夜市」の開催

夏休みの子どもの見守り活動と、夏の夜の子どもの新たな楽しみ、思い出づくりとして「夏の納涼フェスティバル『夏の夜市』」を委員会を中心に実施しています。この夏祭りで子どもたちは夏の夜を楽しみ、大人はその風景を見て昔風の夜なべ談義を繰り広げています。



(取組)「上鳥羽—小さなおせっかい宣言」

委員会を中心とするこれまでの多様な取組の結果として、「小さなおせっかい」の声かけも学区住民に徐々に認知と理解を深めつつあることを踏まえ、平成21年2月21日に「上鳥羽—小さなおせっかい宣言」を行いました。「小さなおせっかい」に包まれた、温かい、こちよい上鳥羽のまちづくりを発信することを宣言しました。



上鳥羽 - 小さなおせっかい宣言

(平成21年2月21日)

笑顔であいさつしましょう
思いやりの心を持ちましょう
声かけをしましょう
できることから始めましょう

(取組)「小さなおせっかい寸劇」の上演

小さなおせっかい宣言式の際に活動交流をしている東京の荒川区「あらかわの心」推進運動のみなさんが出席され、「あらかわの心」の寸劇を上演して頂きました。この「寸劇」を上鳥羽風にアレンジして、おやじの会、PTAそして学生の共演による「小さなおせっかい寸劇」を今年の七夕の夕べの際に、上演しました。予想外の子どもの反応があり、今後も上演を続ける予定です。



あんしん・あんぜん上鳥羽のまちづくりの取組の流れ

平成16年度に地域・PTA・学校が一体となって、「子どもが安心して暮らせる上鳥羽地域」を目指して取組を開始、平成18年4月に「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立以来、委員会では「小さなおせっかいがこちよいまちづくり」を基本目標に、活動を継続しています。

上鳥羽でのまちづくりの取組は手探りからのスタートで、住民の手作りの取組を基本に、その内容の充実と取組規模の拡大をこれまで図ってきました。

「向こう三軒両隣り—安心安全数珠つなぎマップ」、「上鳥羽あんしん・あんぜんパレード」、「竹プランターづくり」、「七夕の夕べ」、「夏の納涼フェスティバル『夜市』」、そして「小さなおせっかい宣言」と、上鳥羽から全国に発信するユニークな取組を実践しています。これからも「小さなおせっかいがこちよい上鳥羽のまち」を目指して、「小さなおせっかい」の声かけ運動を展開していきます。

委員会ではこのように、今一度ご近所づきあいを見直し、おせっかいさを復活することで、「まちの安心安全の地域力の再生」を目指して取組んでいます。

あんしん・あんぜん上鳥羽のまちづくりの取組の成果

上鳥羽では子どもの見守り活動から多くの人々が交流するまちづくり活動に広がっています。これまで自治連合会や各種団体、小学校などの個々の活動は活発でしたが横の連携があまり円滑ではありませんでした。現在は多くの団体の協力が進み、まちが変わったと自覚できるほどです。

「小さなおせっかい運動」の取組は、今一度ご近所づきあいを見直し、おせっかいさを復活することで、まちの安心安全の地域力の再生につながっています。

資料作成：立命館大学産業社会学部 石本

あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会

平成 17 年度の子どもの安心安全に向けた様々な活動の取り組みを踏まえ、組織的・計画的に取り組みを展開することを目的として、自治連合会と各種団体、小学校、PTA の皆さんが集まって、平成 18 年 4 月に「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」を設立しました。

委員会では毎月の定例会を開催、各種団体の取り組みの相互報告と確認、および新たな取り組みの企画とその行動提起を行っています。

このパンフレットでは、委員会の活動について紹介させていただきます。

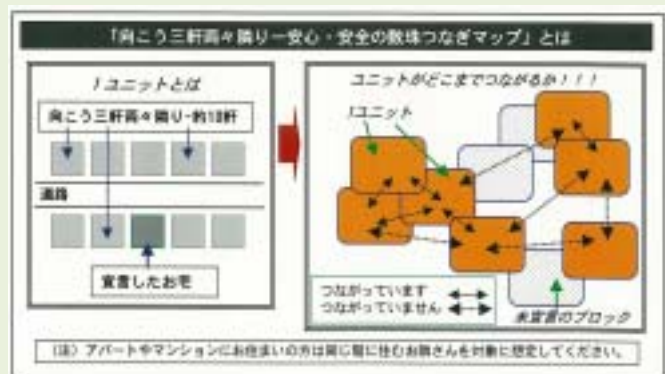


向こう三軒両々隣りー安心安全数珠つなぎマップ

あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会の設立に当たり、「あんしん・あんぜんを地域に広げようという」活動の基礎となった取組です。

平成 17 年、地域全体が子どもたちや高齢者を暖かく見守り、支えあう地域づくりを目指したもので、住民の方や、上鳥羽学区内の企業の皆さんに「向こう三軒両々隣りー安心安全の数珠つなぎ宣言」をして頂き、宣言したお宅を中心に「向こう三軒両々隣りの 10 軒」を「1 ユニット」として、このユニットを住宅地図に表わし、つながり度を示す「向こう三軒両々隣りー安心安全数珠つなぎマップ」を作成するものです。お互いの目と声かけでつなぐ「まちの安心・安全のつながり」の度合いをビジュアルに示すことで取り組み状況の確認ができます。

平成 20 年 3 月末現在で宣言者数約 400 人、見守り宣言企業数は 40 社になっています。まだ学区全体から見ると、数珠つなぎにまでは至っていません。しかし、様々な機会を通じて宣言者を増やし、まちの北から南へ、東から西へ数珠つなぎの完成を目指して取り組んでいます。



上鳥羽あんしん・あんぜんパレード

毎年4月には、子どもの安心安全を守る取り組みを、区民のみなさんにさらに広めることを目的に、「上鳥羽あんしん・あんぜんパレード」を実施しております。あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会のメンバーを中心に、警察の協力のもと、学区内の公園から学校までパレードを行い、沿道のみなさんに、大人の温かい目による子どもの見守りをPRしております。



竹プランター

子どもの見守り活動の一環として、「竹プランター」活動を実施しています。上鳥羽のまちで、玄関に竹プランターを飾っている家を見かけたことがある人が多いのではないのでしょうか。



「竹プランター」とは、

「お花と緑で彩る美しい上鳥羽の町づくり」、
「水やりを通じてのご近所づきあいの推進」、
「子どもたちへの声かけによる安心・安全なまちづくり」と、多くの思いを込めた、手作りによる取り組みです。

この活動は平成17年から始まり、毎年春と秋の2回製作しており、竹プランターの数も、お手伝いしていただける人数も毎年増えています。これからももっと多くの人々の参加と協力により、「竹プランター」を通じて

声掛けの輪が広がることを期待しております。

小さなおせっかい運動

昔は町中に「おせっかい」があふれていました。他人の子どものごとも、近所のお年寄りのごとも、自分の家族のように心を配り見守ってきました。

しかし、最近では他人や、ご近所との関わりが以前に比べ希薄になり、地域のつながりが消えつつあります。そこで上鳥羽では、今こそおせっかいを復活させ安心して子どもを育てられ、ここちよく老後を過ごすことのできる、「小さなおせっかいがここちよい」まちづくりのために「上鳥羽—小さなおせっかい宣言」を発信し、地域の見守り、声かけによる安心・安全なまちを目指しています。



上鳥羽—小さなおせっかい宣言

笑顔であいさつしましょう
思いやりの心を持ちましょう
声かけをしましょう
できることから始めましょう
みんなで取り組みましょう

小さなおせっかい運動の取り組みの一つとして、夏の夜に上鳥羽小学校で実施している小学生や保育園児を対象とした七夕の夕の際に、小さなおせっかいを題材にした寸劇をおやじの会、PTAにより上演し、子どもたちに小さなおせっかいを楽しく身近に理解してもらいました。また、小学生が「小さなおせっかい」を題材に短冊を作り、子どもたちの思いの伝わる作品を委員会が選定し「小さなおせっかい賞」として表彰式を行いました。



○これまでの委員会の取組の成果として、平成 21 年 11 月に以下のような賞を受賞しました。

文部科学省「学校安全ボランティア活動奨励賞」（平成 21 年 11 月 10 日）

あしたのまち・くらしづくり活動賞 振興奨励賞（平成 21 年 11 月 5 日）



上鳥羽あんしん・あんぜん推進委員会は、設立以来、「安心して暮らせる上鳥羽のまちづくり」を目標に、小さなおせっかいを、まちに広める様々な活動をしてきました。また、昨年 5 月の路上強盗事件が発生した際に、迅速に子どもたちを守るために行動がとられたのは、南区では上鳥羽学区のみでした。このたび文部科学省より表彰を受けることができたのは、このような行動や、日ごろの見守り活動が評価されたものだと思っています。

～さらにあんしん・あんぜんに暮らせる上鳥羽のまちへ～

紹介しましたあんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の取り組みは、自治連合会と各種団体、小学校、PTA、おやじの会、そして地域の多くの皆さんの協力により、年々大きな活動へと発展しています。これらの活動には、地域の皆様のご理解、ご協力が不可欠です。

委員会では、学区のみなさんの一人ひとりの小さなおせっかいと協力で、「安心して暮らせる上鳥羽のまち」を目指して、今後も取組を継続いたします。



- 発行日 2009 年 11 月 28 日
- 発行主体：あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会
- 編集協力：立命館大学産業社会学部石本ゼミ 上鳥羽班作成



(平成 22 年 2 月 6 日開催 ゼミ生と住民による石本ゼミ報告会の記念写真)

『上鳥羽学区まちづくり物語』 - 2004 年～2009 年の石本ゼミの活動記録

発行日：平成 23 年 2 月

発行者：石本 幸良 石本ゼミ上鳥羽班

(立命館大学産業社会学部講師 (株)地域計画建築研究所計画部長)

連絡先：TEL, FAX 077-521-1510 E-mail ishimoto.ume@gaia.eonet.ne.jp